

令和8年度 第1回 草津市健幸都市づくり推進委員会

日 時： 令和8年8月25日（火）13時30分から15時15分

場 所： 草津市役所4階 行政委員会室

出席委員： 三浦委員、藤田委員、小沢委員、塚口委員、矢田委員、益川委員、神田委員、御園生委員、崎山委員、先川委員、中西委員、黒川委員、福田委員、望月委員、南委員、村田委員、吉川委員、嶋村委員、山内委員（19名出席）

欠席委員： 白波瀬委員

事 務 局： 健康福祉部 佐藤理事、松尾総括副部長
健康福祉政策課 森下課長、岡田課長補佐、丸山係長、森主任
幼児課 堀江課長補佐、子育て相談センター 黒川副係長、
こども家庭若者課 横江課長、長寿いきがい課 湯浅課長補佐、
人とからしのサポートセンター 中川所長、保険年金課 神浦係長、
健康増進課 上野係長、交通政策課 三田村課長、
都市地域戦略課 高谷課長、スポーツ推進課 遠藤課長

傍 聴 者： なし

次 第：

1 開会

2 議事

- 1) 草津市健幸都市づくり基本方針に係る令和7年度の実績、評価
および令和8年度の実況について

・・・資料1、参考資料①～③

3 閉会

○ 議事

1) 草津市健幸都市づくり基本方針に係る令和7年度の取組実績、評価および令和8年度の取組状況について

【事務局】

＜資料1、参考資料①～③に基づき説明＞

【委員長】

これに対する意見や質問をいただき、さらにこの事業全体としての取り組みが良くなるように議論いただければと思う。市に要望する場というよりは意見を皆様で出していただく、あるいは不明点は質問していただいて理解を深めたり今後の改善点を意見いただいたりできれば。健幸都市くさつは、健康がらみだけでなくまちづくりなども入っており、事務局も市役所で横断的に健康関連部署だけではない人も出席しているため質問していただけるかと思う。

【副委員長】

草津市は、多くの部署が健幸都市に向けた取り組みを複数実施しているところが他市や行政の取り組みとは異なる部分と考えており最大の長所だと理解している。その上で、複数の取り組みが多く連立しているときにどのように集約して成果としてまとめるのか、なかなか難しいだろう。今は全体の指標が複数あると思うが、これが改善されるかどうかというところに各事業がどう繋がっているかが大事だと思っている。

健康寿命はなかなか短期では急に動くものではないので、一定期間を踏まえてこれらの取り組みの成果が反映されるとも考えられるが、「まちづくりが進んでいると思う」とか一定主観的に評価できるものに関しては、情報提供がしっかりなされているかがとても大事であり、そういう意味ではSNSを含めての情報発信がとても大切になってくる。

立命館大学で今年度実施していただいたイベントがすごく印象的だったが、スポーツ健康科学部との共同で取り組んでおられたYouTubeの動画や、トレーディングカードのような、作ったものをぜひ引き続き発信して、特に動画はいつでも観られるものでもあるため、運動強度的には結構きついと思うが、こどもから高齢者の方まで比較的取り組んでもらえるポテンシャルを持った動画の資料だと思う。引き続きSNS等でも上手く繰り返し発信し使ってもらえるとありがたい。

【委員】

高齢者の生きがいづくりについて気になることが一点。令和7年度の実績で、「事業実施に要する経費の一部の補助を行った結果、高齢者福祉の増進を図ることができた」と記載されているが、経済的に経費の一部補助を行った結果、現場ではどのような使われ方をして、かつ、経費を増やしたことでなぜ高齢者福祉の増進が図られたのか具体的な説明をいただきたい。

【事務局】

高齢者の生きがいをいづくりに対して、各老人クラブや地域サロンに補助金を渡しているが、自主的な組織としてウォーキング活動であったり、グランドゴルフ等の健康づくりや生きがいをいづくり等のイベントを行ったり、積極的に取り組んで地域社会に貢献をされているところを評価している。

【委員】

老人クラブ等の団体に補助を出した後の使い道は団体の方々が自由に使えるようにしているという認識か。

【事務局】

仰るとおり。

【委員】

8 ページに載っている「高齢者の生きがいをいづくり」について、老人クラブ数が令和 6 年度は 35 団体あったが、昨年は 19 団体である。しかも大きい地域（山田・常盤）が脱退されている。常盤老人クラブが約 600 人、山田老人クラブが 900 人脱退されている。なぜかという、役を持つ方が毎月市の老人クラブで会議をやるが、そこに行けないため会長を持てくださる方が地域にいないということで脱退されたという問題が出ている。14 学区中 5 区のみで、9 区が老人クラブに入っていないという状態で、運営自体も厳しくなっている。事務局の経費等もなかなか出づらい部分があるので、二、三年経つと実際老人クラブはどうなるのかという不安を抱えている。

事業としては、グランドゴルフ以外にも参加してもらえるように明治安田生命と協力し、市にも協力してもらっているが麻雀教室を開いたり、塗り絵を家でしたりできるようにしているが、昨年からは草津東高校と交流でグランドゴルフや、今年は歩いて行うサッカーの講習で高校生と老人クラブが一緒になってゲームをする等、徐々にいろいろな方に参加をしてもらえる事業を考えているが、なかなか参加率が悪いという状態が続いているため今後どうしていくか悩んでいる。

【事務局】

市としてもホームページ等で老人クラブの活動を紹介しながら、できるだけ活動の支援に取り組んでいきたい。また、ご協力いただける団体や関係機関等があれば一緒に取り組みたい。

【委員】

老人クラブが町内にない。周りも入っていないと思う。だが、サロンが出来ており自主的にボランティアグループが中心になってやっているため、入っていないでもやっている所はやっていると思う。

確かに、自治会館までは行けるがまちづくりセンター等に行くための足がない。健康寿命の年齢を見ても 80 代前半くらいになると免許を返している人が多い。草津市は車がないとものすごく不便。バスは通っているが一日に 3、4 本しかなく、草津駅に行くにしても、本数がないため行きたくても行けない人もとても多い。アンケートを取っていると思うが、永見はバスが出たから行くようになったとか。やはり足がないと行けない。サロンにしても何にしても、行きたい気持ちはあるけれど、誘って連れて行ってくれるのならば行きたいという人も多いと思う。

今、介護に来る要支援レベルの男性が異常に増えていると感じる。一人暮らしとか生保の人とか。精神的な部分と意欲がない人なので認知症もあるが軽い。要支援レベルなのでサービスもそんなに使えない。そういった狭間の方が草津市の男性はとても多い。介護保険対象までとはいかないが、要支援レベルの人が異常に増えている。

私ども小規模多機能をやっているが、男性の方が多く、普通は女性が多い事業だがそれくらい生きがいを持っていない人、鬱系の人、少し何かの支援があれば一人でも生きていられる人がものすごく多いということが分かった。精神を病んでいる方も多く、認知症になった方で、発症しない人との違いは皆さんすごく生きがいを持っているということ。先日、300 人程が来た夏祭りの際は、主催が 80 歳以上の人が多く、そういうことをやっている人の方が生き生きしており長生きで、元気で、麻雀教室も週 3~4 回やっているが、やはり脳を使うことが精神的な元気にもつながる。身体のスポーツももちろんだが+α もっと生きがいを持てるようなことが普通にできていれば認知症も進まないという人は年齢で諦めず意欲的になる。そういうものをもっと考えてもらったら良いと思う。

『されているのは知っているが、行きたいと思っても行けない』、『行った人の話を聞いて、「良かった」と言っていたが、行きたいけどどうやって行くの？と感じる』という人がすごく多いことがわかった。

老人クラブも、「もちろん行きたいと思ったけれど自治会館までは行けない」という人も多い。健康寿命の年齢をもっと上げていこうと思ったらこの辺りを考えるとよいと思った。

【委員】

若者の視点から、資料 1 の 11 ページ「まめバス事業」について。

小学生以下の運賃を無料にする取り組みはとても良い。いつも交通弱者というと高齢者の話ばかり上がってきてしまうところがあるが、将来的な価値でいえば若者世代や現役世代を動かす方が、価値が高いと思っている。特に、草津市は移動手段がなく親の送迎が必要になるところがあると思うので、小学生と言わず中学生くらいまでは無料でいいのではないかな。

草津市の取り組みとは違うが、守山市にもデマンド交通で「もーりーカー」というものがある。市内の移動手段を確保するときに、路線バスが運行できない不便地域といったところに走らせているため、まめバスと同じではあるが、主要の年齢の分布が、70 歳以上が約九割の使用。路線バスが走っている所も、もーりーカーをタクシーのように使う人がおり、予算がどんどん膨ら

んでいるという資料を以前見た記憶がある。おそらく 1,800 円ほどかかっているが、利用料 300 円であるため片道 1,500 円、往復で 3,000 円の負担を税金で、みんなのお金で賄っているということになる。病院等は必要かもしれないが、高齢者の生きがいといったところでどこまで税金で負担するのか。ゲートボールに行くために使うのならそれはどの年代でも同じであり、やや高齢者に行き過ぎていると守山市のもりーカーを見たときに思った。

この「まめバス・まめタク」を走らせるときに、まめタクは利用者の年齢をデータとして採れているかと思うので、地区別のデータだけではなく年代別に、どの年代の人たちが何%使っているかをホームページで公開するなど、この事業がどの年代のために使われているかを公表して、対する市民の評価をいろいろな形で受けることが必要ではないか。ぜひ年代別の利用者を公開していただきたい。

【事務局】

今年度も同様の取り組みで今現在夏休み期間中、こども無料乗車を行っている。今年からは昨年度好評だったことを踏まえて、まめバスだけでなく民間のバス事業者もその趣旨に賛同して独自の実質無料に近い形のこどもの特別乗車券というものがあり、民間の路線バスとまめバスがコラボしたようなイベントも開催しているところである。

まめタクについては残念ながら今、年齢構成は採れていない。まだ交通系 IC を使える状態ではないため、今のところ年齢を区別する手段がない。乗車員に聞けばわかるが、乗車員がそれを控えていることもないため今現在は年齢層が分からない状態である。ただ、これから 10 月にかけて交通系 IC を導入していくところで年齢は少し採れそうではあるため、その結果を踏まえて公表できるものであれば、その利用方法や利用方針を検討していきたいと思うので理解と確認をお願いしたい。

【委員】

小学生無料運送は、こどもたち一人ではなく大人と一緒にということで、こどもが小さいときからバスに乗る習慣をつけてもらうとともに、父母あるいは祖父母、お年寄りが一人ではなく孫と一緒に行く等、いろいろな世代の人がバスに乗り、お年寄りの方は出歩く機会が増えるということで、「無料」というのはこどもだが、それに伴いお年寄りの外出機会も増えるということは意味があるのだろうと思った。

11 ページ 5 行目に、医療法人と連携して送迎バスを試みたということだったが、残念ながら令和 7 年度の実績が、それほど利用者が多くなく 8 年度には継続できなかったようだ。やむを得ないことかもしれないが、使える資源はたくさん使うと医療法人からも最初は提案があったかと思う。こういうものを上手く使って医療法人の方も利用者を増やし、路線バスあるいはまめバス・まめタク等そういったもの以外の、病院が独自に運営されているサービス等も使えるようにしていくことによって草津市内をより自由に、比較的楽に移動できるシステムが作れると思っているので医療法人の取り組みも期待している。

【事務局】

民間の路線バスやまめバスでは、ニーズや需要に応えることはなかなか難しい状況である。運賃や燃料、運転者の労働基準も厳しくなって増便や充実が難しい状況になっている。

対して、送迎バスや他の新しい自ら運転するようなシェアサイクル、新たなモビリティのようなところを総合的に活用し、少しでも自由に、便利に行けるような体制を作り検討したい。

【委員】

資料1の1ページから3ページに健幸に暮らしていると思う市民の割合等様々載っているが、年代別割合のほとんどの項目で40代から60代までの方が「あまりそうは思わない」とか「そうは思わない」に分布していて残念な結果である。

一番健幸でいてほしかった年代と思うが、理由や意見の集約は出来ているのか。

【事務局】

このアンケートが市民意識調査でとっているものであるが、「そう思う・思わない」の丸だけで理由については一緒に聞くアンケート調査ではないためなぜそのように思っているかというところまで拾えるものではない。

時々こちらがしているイベントで、来場者にアンケート調査をすることはあるが、例えば家族で来ている方は基本的に満足度が高く健幸と思っている方が多いため、マイナス意見の理由を聞ける場面があまりない。どこにネックがあるかをこちらも知りたいところではあるが、なかなかそれをキャッチできている状況ではない。

【委員長】

調査方法は無作為抽出で郵送ではなかったか。

回収率はあまりよろしくないか。

【事務局】

郵送。

回収率は3分の1とか4分の1とか。

【委員長】

回収率が良くないとは、比較的意識の高い人が返送してくれているが「そう思わない」と言っている人が多いということになる。

2、3ページの参考指標を見ると目標も低いいため、達成していると書いてあるが、せいぜい二割か三割の人が思っているだけで七割方思っていないということであるから、本当はもっと高い目標（数字）を目指さないといけない。

【委員】

なぜ「そうは思わない」のか、分かった方がこれから改善していけるのではないかと。理由を自分で書く方法であれば多分書かないと思うし、面倒くさいとなって余計回答率は低くなるかもしれないが、選択肢などを書いておき当てはまるものに意見をしてもらう等、簡単に回答できるようなアンケートでもいいのではないかと。

【委員】

資料1の12ページ、SNSや広報啓発事業を今後もしていくということだが、医療の現場にはこういう案内がされているのか。勤めている薬局では近隣に婦人科や精神科があるが心が少し元気がない方や生きがいがない方とよく接する。婦人科では女性が多く、更年期などつらい方もたくさん来るが40代とかは割とSNSもまだすごく盛んに見る世代である。薬局や病院でもこうしたSNSをやっていることをぜひ発信したいと思うが、市役所からそういった場所に働きかけはしているか。

【事務局】

今までは「Instagramを始めています」とか、特段チラシを作って「これを掲示いただけますか」という働きかけをしたことがなく、なかなか思いつかないところだったので良い視点をいただいた。本日は欠席ではあるが医師会にも相談をさせていただきながら、可能な範囲でご協力いただけるように相談したい。

【委員】

健幸都市くさつのInstagramを見たところ、フォローを21件しかしていなくて、それも立命館大学とか運動に関するスポーツ関連の施設とかはしているが、医療機関は一切していない。SNSを頑張って運用したいという方向であれば、草津市が病院とか、それこそ滋賀医大もしていると思うが、薬局もフォローしているし、そうすれば自然ともう少し広がって市民の目にもつきやすいかと思う。

【委員】

以前から心の健康の話をさせていただいているが、表に出てきたと感じる。最近の学生の状況で話をすると、今大学全員で34,000人程（大学院生含む）いる中で、だいたい1,600人くらいが何らかの診断書を大学へ出している。それは心も身体も含めてだが、身体で難聴等が100人程、残り1,500人程が心である。そのうち六割程が発達障害、学習障害に関わる部分で実際に様々な困難を抱えながら、大学としても合理的配慮のような形で同じ環境で学べるようにという配慮を義務化以前からやっていたが、昨年からは正式に義務化された。

今回の資料を見つつではあるが、発達障害や学習障害に関わるような部分の理解があることが、本人が生活していく上でも、また本人が幸せになる上でも非常に重要になると思うので、理

解を深めるところにも取り組む必要があると感じる。

今、学生で希死念慮（昔でいう自殺願望）を持っているのが軽度から重度まであるが何人くらいいるのかをカウンセリング時に把握している。だいたい 34,000 人中 400 人くらいはそういう状況にあるのではないか。昔に比べて多いか少いかはわからないが、感覚的には比率で考えると結構多いと感じている。その背景にあるのは結局家庭環境の複雑さ等で、ここは市としてもなかなか手は入れにくい部分かと思うが、そういった者の居場所があるということが重要になるだろう。受け止める居場所づくりというのは非常に重要になってくる。

併せて、学習障害から様々な障害を抱えている留学生は最近非常に増えており、今回のこの健康都市は主に日本人を対象としている感じもあるため、多様性やダイバーシティを前提としながら様々な市民を受け止めるということも今後検討してもよいのではないか。

【委員長】

留学生の話もあったが、外国人の対応に関連する部署はあるか。

【事務局】

本日出席しているメンバーの中にはいないが、まちづくり協働課がそのあたりを所管している。

【委員】

今、中学校で取り組んでいることを一つ紹介させてもらおうと思う。

昔の国語・算数・理科・社会だけではなく、学校現場では子どもたちの探求心を持ち上げようと、教科外の様々な学びを頑張ってやっている。草津中学校では、草津市を活性化しようということで1年、2年、3年と系統立ててやっており、なかなか街中の学校のため、田んぼや川があるところではないので、柱としては草津の観光をなんとか盛り上げるということでここ数年やっている。先程あったまめバス・まめタクについても、去年、一昨年卒業した3年生が一生懸命に、交通政策課にも多大なるご支援ご協力を頂いた中で、実際にまめバスに何回も乗せたりまめタクにお願いしたり、なぜ盛り上がらないのだろうということで京都まで行き、京都はバスに乗ると非常に混雑するため、この差は一体何なのだろうかと様々な検証をさせた。

そこで見えてきた、中学生の見立てとしては「そんなに乗る必要がない」とか、バス沿線の若い保護者に聞くと「自分で送り迎えするから別に乗る機会がない」とか、様々な理由も聞かせてもらった。運転手が不足しているという問題も。片や客側の声というものもたくさん吸い上げると、この草津市は車社会で車がないとやっていけない町のため、バスに乗らなくても送り迎えますという必要性の問題とか、そういうことを中学生なりに、「草津市の市民だけではいけないから外国人を取り込もう」と言っているインバウンドの人も呼ぶためにはどんな町にしないといけないか検証をしたことがあった。その中で、中学生の結論は、例えば高齢の方の問題や課題、それから若者たちの問題や課題（中学生や小学生も含めて）それぞれを解消しようというのはな

なかなか進みにくいことが多々あり壁があった。そんな時に中学生が「うちの父母はこうです」とか「うちの祖父母はこうだよ」とか、そこに中学生が出来ることはなにか。その繋がりを今以上に太くするとお互いに Win-Win の関係というか、良いコミュニティや社会が実現できるかもという中学生結論を持った。

本日たまたまこちらに大路区の自治会長にお越しいただいているが、一つ紹介させてもらくと、大路区ではご高齢の方がスマホの使用で難儀されるのに中学生にお声がけいただいて、中学生が地域のご高齢の方に指南するという取り組みをしていただいている。会長らに伺うと非常にありがたいというお声をいただき、中学生に聞くと「あれでいいのであれば」というこどもたちの自己有用感というか満足感というか、そういうものも高まってくるし、ここにもやはり Win-Win の関係が出来る。

要するに、個々の課題というよりもその繋がりにもう少し焦点を当てて考えていくというのも一つ打開策というか、次へのきっかけになるのではという、こどもたちの考えを紹介させていただいた。

【委員】

高齢者と若者たちのそういった関係づくりについて、我々も様々なところで協議をしていたが、大路区の特徴としては高齢化が非常に進んでいるというところと、一番気になるのが高齢者の一人暮らしが 14 学区で一番多いところ。マンション住まいの方がほとんどで、どちらかといえば生活が見えず何をしておられるか気になるところがたくさん出てくる。そうしたところで中学生の方に「スマホ教室やるけど手伝ってくれる？」と話をしたところ「喜んでさせてもらいます」ということで、月に一回土曜日に、だいたい 10 人くらいの高齢者が来られる。高齢者の方の感想としては、「自分の孫の世代に教えてもらうことが非常に心の豊かな経験をさせていただいた」と本当に感謝の気持ちを表してもらえたことが非常によかった。これは続けていきたい、まさしくこれが健康づくりの一つだと思っている。

【委員】

このまめバスというものは、コースや時間帯はどう決めているのか。おそらく希望して利用したい方はたくさんいらっしゃると思うが、本数が合わなかったり行きたい場所に向かってなかったりというところがあるのではないかな。

例えば、卒園したこどもたちが老上西小学校と老上小学校に就学するお子さんが多い保育園だと、近くの住宅地から老上西まではこどもの足ではなかなか歩いて行けないため保護者が送らないといけない。朝 8 時以前だと小学校は安全の面で開けてもらえず受け入れてもらえない。職員が 8 時以降でないと対応できないため 8 時を過ぎたら校門に入ってくださいとなっている。

また、歩いていきたいと集団登校を希望するお子さんは、決まった場所まで保護者が送りそこからは歩いていく。集団登校を希望しないお子さんのご家庭はそれぞれ校門の近くまで送っていき 8 時以降に登校するという形であると聞いているため、特に朝の渋滞する時間帯や天候に

よって保護者が勤務するにあたり非常に困っておられ、4月、5月は必死で「保育園のときはよかった」という保護者や、兄弟がおられる保護者はすごく困っておられる姿を見ているので、コースや時間の見直しなどはされているのか教えていただきたい。

【事務局】

草津市としての交通のあり方を先に述べると、まず路線バスで縦横の多いところを繋いでいこうという基本的考えがあり、そこで路線バスや足りないところは次にまめバスで対応する。まめバスを引いて駅まで行くといったようなところで他を合わせているところ。

さらに、まめバスや路線バスのバス停に向かうため（そこに乗ってもらう、そこまで行けない人のため）に、まめタクを設定しているところである。どこの路線に引こうとかどの時間帯にというものは、この考え方に基づいて設定をしているところであり、一つ紹介をさせていただきたいのが、今のまめタクについてはもう少し利用者数を増やし利便性を高めたく、今年度から少し地域に入って地域のご意見を伺いながらももう少し使いやすい時間帯であったり路線であったりアイデアであったりを一緒に考えてきた。特に昨年度からは山田学区に入り、今年の10月にはいただいた意見を踏まえた山田学区でのまめタクの路線改変・ダイヤ改正をする。このように地域に入ってダイヤや路線の改正をすることは市内の各地域でもこれから広げていきたい。

【委員】

未就学児や園に通っていない幼い年齢のお子さんが家にいるお母さんだと、なかなか車で図書館等にも行きづらいと思うのでお母さん同士が繋がりを持つようなコミュニティを拡げる場としてのコースや時間帯もう少し増やしていただけると嬉しい。

【委員】

この健幸都市づくりについては、障害者というところがあまり見えてこない。この資料を読んでも高齢者の方の姿は見えるが障害者は見えない。私共は、知的障害や発達障害等いろいろな障害の方々を見ているが、余暇活動がすごく難しくなっている。もちろん中度・重度になるとバスに乗ることも一人ではできないし、誰かがいつも付いてあげないと移動もできない。また、自分の趣味や生きがいも持てずにいる方が多い。土曜、日曜に作業所が休みであれば一日部屋に閉じこもってテレビを観ている。そのテレビの内容を解って観ているというよりは音が流れているから観ているというように、支援をしている側としたら「この子たちの楽しみは何なのだろう」と考えさせられる部分がある。

心身障害児者連絡協議会は、年に一回、草津市から生き生きふれあい大運動会というものを総合体育館でさせていただく。たくさんの障害のある方が参加して、本当にすごく良い笑顔をしてくださる。実際障害のある方（特に知的の方）は実年齢よりも10歳から20歳くらい老化がきいたため、私の娘はダウン症で、どう見ても36歳だが60歳くらいの感覚。そのように体力的にも弱くなってくる障害のある方々を、いかにこの健幸都市づくりで余暇支援を計画してもらえる

のか聞きたい。いろいろと行事はされているようだが、果たしてそこに障害のある人がこの地域社会で楽しめるものがあるのか疑問を持つので、私もこれから考えていきたい。

【事務局】

たしかに、この健幸都市づくり基本方針の中であまり「障害」という文字がない。障害の方を排除しているわけではもちろんなく、そういった視点で取り組んでいくことは大事であると感じる。障害部門の職員ではないためあまり自信を持って言えないところはあるが、いただいたご意見を踏まえながらそういった方々も楽しんでいけるような取り組みをしていければと思う。

【委員】

長浜と草津を比べると、長浜は非常に高齢化が進んでいてこちらは若い世代が多く、対照的な地域だと思っているがいずれ人口減少という問題がやってくる。長浜は人口減少が予想以上に速いスピードできており、それはこの草津でもいずれやってくると予想している。

統計の中で一番よく推計が当たるのは人口である。今、保健所で対応している問題として何点かあるが、まず医療再編。高齢化と人口減少がダブルで来るが2040年を見据えて医療再編を着手し始めている。長浜は病院が4つだけだが、この大きい病院同士で合併していかないともう患者が集まらないというか、患者基盤となる人口が減るため、それはいずれこの地域でもやってくる。確かに、今ここは医療過密というか、どこにでも病院が近いところにあるが、それも視野に入れて政策に生かしてもらいたい。

もう一点はグローバル化。いろいろな国々から外国の方が来られる。言葉、教育、就労、保健医療、福祉の中でもこの外国人の対応というものが課題である。

もう一つは若い人の自殺。心の健康という問題があったが、滋賀県は平均寿命がトップクラスだが限りが来ると思っている。なぜかわからないが乳児死亡率が全国最低になった。それも検証していく必要がある。今は、全国的に滋賀県は非常に健康寿命も平均寿命も良いが、沖縄の後ろを走っている感じがして、沖縄も落ちたし長野も落ちたので、その辺りは先を見て対応していかなければならない。

話がずれるが災害。地震、浸水、熱中症という自然災害だけでなく感染症（今たくさんの町内で結構届け出があがっている）、感染症だけでなくオールハザードという考え方が厚労省でも示されている。自然災害、感染症だけではなく、そういった災害への対応というものも必要になってくる。

これは健幸政策であるため、非常に幅が広くどこに焦点をあてていくのか。基本方針・目標設定のところで、なかなか満足度とかが上がっていないがこれは時代に合わせて変更していても良いかと思うし、「健康づくり」ではなくて「健幸政策」というところが入っているので非常に苦労して設定されているかと思う。

最後に、繋がりという点。ソーシャル・キャピタルを繋ぐ手段としてICT化、DX化を活用して全世代型の繋がりを考えていく必要があると感じた。

移動手段だけの問題ではなく、様々な繋がりを考えていけるとよい。

【委員長】

社会全体、市全体で「健幸」が上がっていくような取り組みが進むように市にも考えていただけたらと思う。議事は以上となるが、議事録については、事務局でとりまとめをした上で、確認を私に一任いただいてもよいかな。(⇒異議なし)

【事務局】

委員各位におかれては、各立場から行政の気づかない課題やポイントをご教授いただき感謝申し上げます。いただいた意見を参考に、今後の取り組みに繋げていきたい。今年度の会議は現状今回で最後と考えているが、開催の必要が出てきた際は案内させていただく。

3 閉会